

アイデアソン in 大阪(グループ③)

日本で一番
安全な街にしよう(防災)

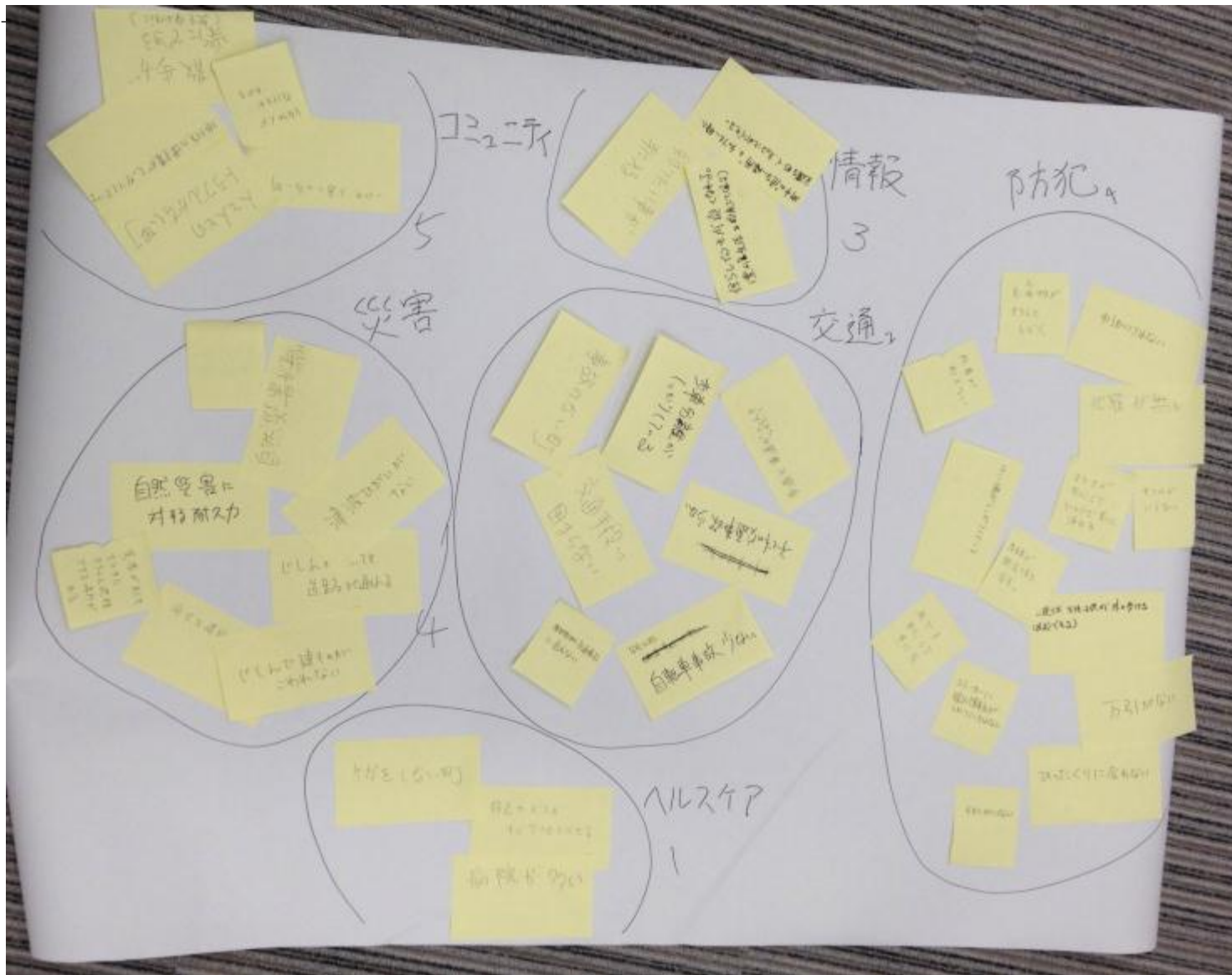
参加者の皆様

- マスコミ関係。データジャーナリズムに興味あり。
- 自転車を作っている企業の会社員。
- 元家電メーカーのソフトウェア開発。
- 行政で就労支援を担当。
- 学生さん。OSM経験あり。
- 学生さん。データマイニングを選考。
- 行政で中小企業支援。企業の実態把握の方法に興味あり。

最初のテーマ抽出

「安全な街にしたい」というテーマから連想する課題を書き出してグループ化。

- 交通 2人
- 防犯 4人
- 災害 4人
- 情報 3人
- ヘルスケア 1人
- コミュニティ 5人



「コミュニティ」の視点からの課題抽出

挙げてもらった課題を、マクロな課題(自治体等が取り組む課題)とミクロな課題(地域で対面で解決する課題)に分類。



参加者の皆様

オープンデータに関する疑問。議論のポイント。

■ オープンデータとして情報の有無に関する疑問。

- 建物の古さなどはわかるの。
- 各家がインターネット開通しているのはわかるの。
- コミュニティに関する情報はあるの。→ コミュニティに関する情報はそもそもあるの。あるんだけど、我々が知らないの？
- 公民館等でのイベント情報はあるの。
- イベントをやったときの評価(成功だったのかどうか)を行った情報はあるの。

■ 議論のポイント

- (消防団のお話): 消防団って楽しいの??
- 避難所等の管理は??
- まちづくり協議会って何やっているの??
- 地域を支えているのは、自治会、PTA、消防団、商店街??
- 自治体のSNSとの連携は??

得られたアイデア(その1)

- 避難をしたいとき広域避難所に行けるかどうかわからない。→建物の高さをオープン化して、すぐに避難できるマップができるのではないか。
- 住基データから世代等の平均を出せるので、街づくりの最適化データを作れないか。
- 住民の方からの苦情処理が行政では大変(例えば、家の目の前の県道で狸、犬、鹿死んでいるので片付けて)。その経費が馬鹿にならない。住民と行政のミスマッチがある。→これだったら手伝えるよというお助け出合いサイトが公共部門を絞った中でできないか。(クラウドワークスの行政版)
- 地域住民の信頼関係を作るためには強いコミュニティ作り、地域イベントの参加率を増やさないと。→過去のイベントの記録(実施記録やアンケートデータ等)を分析。参加した地域住民のニーズ・参加記録も収集。→地域住民の好みに応じたイベントを企画するためのサービスへ。

得られたアイデア(その2)

- 消防団等のコミュニティ活動の参加記録をSNSと連携。参加できるグループをリコメンデーション。
- 自治体のホームページを濃くすること→現状では単なる情報であり、どこでどういう面白い情報があるのか、まちづくり協議会がわかりやすく発信し直す。
- ゴミ捨て仕分けや回収日(自分の地域のゴミは〇〇曜日等)などをカレンダーサービスとして提供。
- 学校がスマホの普及状況をチェックして、裏サイトアクセスによるいじめ防止。
- 世帯調査をデータを使って、ママともが繋がりがえるようなコミュニケーションの活性化を促す仕組みへ。
- 学校や公園にある備蓄倉庫に個人の防災備蓄や助け合いをするための仕組み作り。地図上で登録した情報を公開し合う(小学校単位をメド)。